

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 浅川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

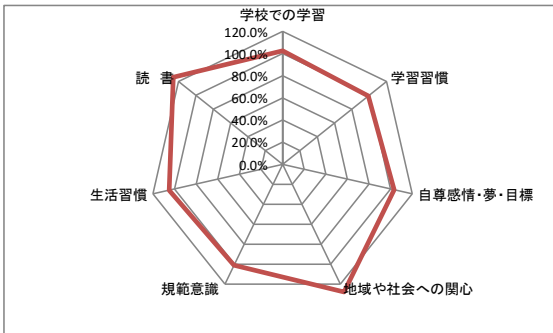
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの領域で全国平均を上回っているが、「読むこと」に関しての正答率がわずかに全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「話し合いの流れを踏まえ、自分の考えを書く」や「短歌の中から一首選び、感じたことや考えたことを書く」などの書くことの問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	文章の内容を捉え、解答を選択する等の選択式問題においての正答率が低かった。	

数学	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの領域で全国平均を上回っており、関数分野においての正答率が特に高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる等の式やグラフを使って説明する記述式の問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	数の概念の問題で、問題の内容を理解し解答を選択する選択式問題においての正答率が低かった。	

英語	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの領域で全国平均を上回っており、「話すこと」に関しての正答率が高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する問題や基本的な表現を理解して応答する問題など、「活用」に関する問題においての正答率が高い。	
	努力が必要な問題	資料を読んで、その問題に対する自分の意見を書くなど「書くこと」の問題において少しだけ正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>「学校での学習」「学習習慣」「自尊感情・夢・目標」「規範意識」「生活習慣」に関する質問においては、全国平均とほぼ同等である。</p> <p>「読書」に関する質問においては、全国平均を上回り、本校で取り組んでいる朝読書の成果が表れている。また、「地域や社会への関心」に関する質問においても、全国平均を大きく上回っている。</p> <p>今回の調査結果で、生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、将来の夢や目標をもち、社会に貢献する意思をもっていることがわかった。今後もさらに高めていきたい。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、学び合いや教え合いの活動を今後も引き続き取り入れ、正答率が高い反面、無回答率も高い状況を上位の力を活用し、相互の力を伸ばしていく。 学習で得た知識を適切な場面で活用する力をつけさせるため、授業で場面設定をしていく。 選択式問題を「正確に読み取る」力をつけさせるため、読む力を強化していく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習する習慣を確立させるために、自主学習ノートの取組を充実させる。 基礎基本の学力の確実な定着を図るため、適切な学習課題を提示する。 早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣の継続を目指し、今後も家庭と連携していく。
--